

昭和五十三年三月招集

第一回館山市議會定例会會議錄第五号

館山市議會



# 目次

日時	二
場所	二
出席議員	二
欠席議員	二
出席説明員	二
議事日程	二
開議	三
議案第十号ノ議案第十三号、議案第二十三号	三
総務常任委員長報告	三
同報告に対する渡辺軍治郎君の質疑	四
渡辺軍治郎君の討論	五
松下 正己君の討論	六
採決	七
議案第十四号ノ議案第十八号、議案第二十四号	七
文教民生常任委員長報告	七
渡辺軍治郎君の討論	八
空戸 寿夫君の討論	九
辻田 実君の討論	一〇
採決	一三
議案第二十号ノ議案第二十二号、議案第二十五号、議案第二十六号	一三
建設経済常任委員長報告	一四
同報告に対する辻田 実君の質疑	一五

採決	一六
議案第三号ノ議案第九号	一六
予算審査特別委員長報告	一六
渡辺軍治郎君の討論	一八
辻田 実君の討論	二一
採決	二六
請願第一号	二七
総務常任委員長報告	二七
継続審査について	二七
議案第二十八号	二八
内容説明	二八
委員会付託の省略	二八
採決	二八
閉会	二九
本日の会議に付した事件	二九

一、昭和五十三年三月二十七日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十八名

- |           |            |
|-----------|------------|
| 一番 吉田 勇治郎 | 二番 伊藤 幸太郎  |
| 三番 矢野 寿夫  | 四番 押元 稔    |
| 五番 黒川 平治  | 六番 鈴木 正義   |
| 七番 本間 昭二  | 八番 松下 正己   |
| 九番 鈴木 稔   | 一〇番 荒山 源次郎 |
| 一番 近藤 好雄  | 一二番 栗原 一雄  |
| 二番 林 豊    | 一四番 石井 輝久  |
| 一五番 辻田 実  | 一六番 安西 益男  |
| 一七番 石井 武敏 | 一八番 渡辺 軍治郎 |
| 一九番 渡辺 昭夫 | 二〇番 和田 一郎  |
| 二二番 五十嵐 昇 | 二三番 菊井 敏博  |
| 三四番 西村 真次 | 二五番 伊賀 多朗  |
| 二六番 藤田 益治 | 二八番 石井 正康  |
| 二九番 望月 照正 | 三〇番 山口 康   |

欠席議員 二名

出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第五号）

昭和五十三年三月二十七日午前十時開議

日程第一

- |         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 議案第 十号  | 館山市行政組織条例の制定について                  |
| 議案第 十一号 | 館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について       |
| 議案第 十二号 | 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について         |
| 議案第 十三号 | 館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について |
| 議案第二十三号 | 昭和五十二年度館山市一般会計補正予算（第三号）           |

日程第二

- |         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 議案第 十四号 | 館山市国民年金印刷紙購入基金の設置及び管理に関する条例の制定について |
| 議案第 十五号 | 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の制定について      |
| 議案第 十六号 | 館山市民生資金貸付条例を廃止する条例の制定について          |
| 議案第 十七号 | 館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について       |
| 議案第 十八号 | 損害賠償の額の決定について                      |
| 議案第二十四号 | 昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）      |
| 議案第 十九号 | 字の区域及び名称の変更について                    |
| 議案第二十号  | 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定  |

定について

議案第二十一号 市道路線の認定について  
議案第二十二号 市道路線の変更について

議案第二十五号 昭和五十二年度館山市国民宿舎特別会計補正予算(第二号)

### 議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十八名、これより第一回市議会定例会第五日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案第二十六号 昭和五十二年度館山市ユースホステル特別会計補正予算(第一号)

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、議案第十号乃至議案第十三号及び議案第二十三号の各議案を一括して議題といたします。

議案第三号 昭和五十三年度館山市一般会計予算  
議案第四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第十号 館山市行政組織条例の制定について  
議案第十一号 館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第五号 昭和五十三年度館山市と畜場特別会計予算

議案第十二号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

日程第四 議案第六号 昭和五十三年度館山市国民宿舎特別会計予算

議案第十三号 館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について

議案第七号 昭和五十三年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第二十三号 昭和五十二年度館山市一般会計補正予算(第三号)

議案第八号 昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

### 総務常任委員長報告

議案第九号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計予算

日程第五 請願第一号 日中平和友好条約締結促進に関する請願書

○議長(吉田勇治郎君) ただいま議題となりました各議案は去る三月十三日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

日程第六 議案第二十八号 館山市助役の選任について

開 議 午前十時五十分開議

総務常任委員長栗原一雄君御登壇願います。(拍手)

○総務常任委員長（栗原一雄君） 本定例会におきまして三月十三日の本会議において総務委員会に付託されました議案五件については、三月十五日の総務委員会における各議案の内容審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

まず初めに、議案の審査結果について申し上げます。

議案第十号館山市行政組織条例の制定について、議案第十一号館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第十二号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について、議案第十三号館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第二十三号昭和五十二年度館山市一般会計補正予算（第三号）につきまして慎重に審査の結果以上の五議案について全員それぞれ原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、審査の過程において各委員より活発な質疑応答が行われたのでありますが、特に次のような執行、行政施行にあたって留意すべき点、検討を要する要望等のありました事項について申し上げます。

議案第十号乃至第十一号については、部制の施行により特一等級の新設に伴う事務の簡素化を図り、より円滑な行政の推進ができるよう、また管理職手当の支給の範囲、他の事務部局における組織についても引き続き検討されたい旨の要望がなされました。

議案第十二号については、消防団の報酬は特に団員の改定幅が少なく考えるので十分考慮されたい。なお、報酬の改定も必要だが、団の装備充実に意を尽くすべきではないか。さらに自警団に対する助成、自警団を含めての団の再編成について検討された

い旨の要望がなされました。

議案第十三号については災害等の見舞金が増額されておりすが、復旧資金の貸付制度について検討されたい旨の要望がなされました。

議案第二十三号については、観光協会は市長を会長として再建のため発足をみたが、花摘み園の問題等が指摘されており、今後十分なる指導を行い、市民ぐるみの観光推進体制の確立に努力されたい。

なお、学校統合については、西岬中の建設により市民の中に動揺も感じられ、今後種々の問題が出てくると思われるので、慎重に対処されたい旨の要望がなされました。

以上の強い要望諸点については、質疑の中で市当局より今後行政執行にあたり十分考慮する旨の答弁がありました。

以上、審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同をお願いいたします。総務委員会の報告を終わります。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

### 委員長報告に対する質疑

○議長（吉田勇治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 議案第十号、十一号に関連しての質疑ですが、市長が行政機構の改革を提案し、施政方針の中で「社会情勢に即応した行政組織、複雑多様化する事務処理の合理化及び住民サービスの向上を図る」ということが行政機構を改革した市長の趣旨といえますか、そういうことが施政方針の中で出されて

いるわけですが、社会情勢に即応したというよりなこと、かなり抽象的な言葉で出されているわけですよ。どういう社会情勢に即応したのか。それからそれに即応する行政組織がなぜ必要なのか。それから複雑多様化する事務処理一体これはどういうことなのか。そういう問題がただ言葉の上では合理化というふうに出されておりますが、具体的にどうということなのか。及び住民サービスの向上を図る。

(「委員長報告に対する質問じゃないよ」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 発言中ですが、静粛に願います。

委員長に対する質問ですから。最後の趣旨がわからないですね。

(「継続、継続」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 発言継続します。

○一八番(渡辺軍治郎君) 委員長に対する質疑を始めたわけではっきりしているわけですよ。ただ市長がそういう施政方針で述べられたようなことが委員会でもって十分討議されたのかということを経営委員長に質問しているわけです。

○総務常任委員長(栗原一雄君) その問題につきましては十二分に検討されました。

(「了解、了解」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終わりたいします。

## 討

## 論

○議長(吉田勇治郎君) これより討論に入ります。

通告がありますので、暫時発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。登壇願います。

(一八番議員渡辺軍治郎君登壇)

○一八番(渡辺軍治郎君) 私は、議案第十号館山市行政組織条例の制定に反対する討論を行います。

この行政組織条例は市長公室、総務部、民生部、経済部の一室三部を新たに設置するものですが、その根拠は市長の管理権限を部長に与え、上からの統制を強化するための機構改革であるということであります。

市長は、質疑の中で市長の方針をすみずみまで徹底するために強力な統制権がなければならぬといっています。要するにこの組織条例改定の目的は、市長の管理統制を強化する以外のものではありません。施政方針では社会情勢に即応した行政組織、また複雑多様化する事務処理の合理化及び市民サービスの向上を図るための行政組織条例を新たに制定したといっています。これを市民との関係で見ると、それぞれに対応する各課を充実するか、課を新設することが合理的であって、課の上に部を設けて統制を強化することは行政事務を複雑化し、屋上屋を重ねる非民主的な行政と言わざるを得ません。

よって、議案第十号館山市行政組織条例の制定に反対するものであります。

次に、私は議案第十一号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定に反対の討論を行います。

この給与条例の一部改正は、議案第十号の組織条例の改定と一体のもので、市長公室長、総務部長、民生部長、経済部長職の格

づけを行ったものですが、第一条で管理職手当を百分の十から百分の十五に引き上げ、別表一の行政職給料表に特一等級を新たに加え、管理職の優遇措置を図っています。

市長は、いままで四つの課を統合し、課長減らしの合理化で人件費の削減をしてみました。市長は人件費について直近上位に移行するので、その額は少ないと弁明していますが、新たに部長職を設けることによって課長職の補充もあり、定期昇給、賞与、勤勉手当、退職金等今後の給与を総合的に見れば、管理職の給与は少ない額にはとどまりません。その上に、上に厚く下に薄いという給与のゆがみを一層強めることになりました。

この給与条例の改定が市長の統制権強化と結びついて実施されることには、市民感情からみて認めるわけにはいきません。

よって、議案第十一号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 次、賛成者の討論を求めます。

八番松下正己君。

（八番議員松下正己君登壇）（拍手）

○八番（松下正己君） ただいまの委員長報告について、特に議案第十号乃至十一号について私は賛成の討論を行います。

議案第十号館山市行政組織条例の制定についてですが、市当局は五十二年当初におきまして、施政方針の中で抜本的な機構改革と称し、防災課を社会開発課としコミュニティ係を増設し、農産課、水産課を統合して農水産課といたしました。この機構改革の時点では決して抜本的とは思えず、とても納得することができませんでした。

その後、一年有余の機構改革に対して前向きな研さんを重ね、慎重な思考の中で社会情勢に即応した行政組織、住民サービスの向上に立った一公室、三部制の実施をみることでございました。これこそ抜本的な機構改革であると称賛の言葉を贈りたいと思います。

なお、県下二十六市中大部分とも言える市が部制を敷いており、本市が部制を敷くことによって、県下では三市を残すのみとなりまことに諸般の情勢を考えた適切な措置であると考えられます。

ただ、あくまでも新設であるという条件の中で、事務の合理化と、より円滑な行政の推進という点でまだまだ検討すべき点もあると思いますので、それらを踏まえた慎重な運営を要望いたします。

次に、議案第十一号館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定についてですが、年々予算に対し人件費の比率が下降線をたどるよい傾向を示してきております。現在、五十二年におきましては人件費率三五・三％、五十三年三三・一％と当局の苦心が見受けられます。結果が計数の中に示されており、これらの実績の上に立ってこのたびの特一等級を考えますに、特一等級が人件費中でそれほど強い負担となっているとはとても考えられません。なお、地道な直近上位という考え方の中で管理職手当を一二％と些少に抑え、適切かつ合理的とも言える給与条例改正と考えられこれらの理由で両案について賛成をいたしますが、なお、委員長報告にありましたそれぞれの要望を加味して御検討くださるようお願いいたします。討論を終ります。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論を終ります。



通告しない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

## 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

まず、議案第十号及び議案第十一号について起立により採決いたします。

議案第十号及び議案第十一号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第十号及び議案第十一号を委員長報告のとおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、議案第十号及び議案第十一号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第十二号、議案第十三号及び議案第二十三号の各議案を一括して採決いたします。

議案第十二号、議案第十三号及び議案第二十三号の各議案についての委員長の報告は原案可決であります。議案第十二号、議案第十三号及び議案第二十三号の各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

### （「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十二号、議案第十三号及び議案第二十三号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第十四号乃至議案第十八号及び議案第二十四号の各議案を一括して議題といたします。

議案第十四号 館山市国民年金印刷紙購入基金の設置及び管理に

関する条例の制定について

議案第十五号 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条

例の制定について

議案第十六号 館山市民生資金貸付条例を廃止する条例の制定

について

議案第十七号 館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例

の制定について

議案第十八号 損害賠償の額の決定について

議案第二十四号 昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計補

正予算（第一号）

## 文教民生常任委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各議案は去る十三日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果について委員長報告を求めます。

文教民生常任委員長近藤好雄君。

（文教民生常任委員長近藤好雄君登壇）（拍手）

○文教民生常任委員長（近藤好雄君） 三月十三日の本定例会にお

きまして文教民生委員会に付託されました議案六件につきまして三月十六日委員会を招集、慎重審査いたしました。その審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

まず、議案の審査の結果について申し上げます。

議案第十四号館山市国民年金印刷購入基金の設置及び管理に関する条例の制定について、議案第十五号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の制定について、議案第十六号館山市民生資金貸付条例を廃止する条例の制定について、議案第十七号館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について、議案第十八号損害賠償の額の決定について、議案第二十四号昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）につきまして慎重に審査いたしました。が、議案第十五号を除く五議案につきましては全員それぞれ原案どおり可決すべきものと決定いたしました。が、議案第十五号の館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の制定についてにつきましては賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

なお、審査の過程におきまして、各委員よりきわめて活発に質疑応答が行われたのでありますが、特に各議案に対しては要望等がありました事項について申し上げます。

議案第十五号につきまして一部委員から使用料につきましては施設の目的からして当然無料もしくは最少限とすべきだとする反対意見がありました。また特に事故防止についての管理方法に対し、管理人を常駐させること及び使用申し込みの簡略化と、野球の場合使用時間でなく、一試合とすることについて今後考慮してほしい旨の要望がなされました。

議案第十六号につきましては、公の制度で行っていたものを民間サイドに移し、市民の簡便さを考慮する趣旨でありますので、今後市は十分指導し、その趣旨を十分生かすよう要望いたします。

議案第二十四号につきましては、将来の問題といたしまして、上手な医者のかかり方、住民参加の連帯意識の高揚のための方法市長の提唱しているボランティアの中に取り入れる等努力されるよう要望いたします。

以上、審査の概要を御報告申し上げた次第でございますが、満場の御賛同をお願いいたしまして、文教民生委員会委員長の報告を終わります。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終わります。

## 討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

通告がありますので、暫時これを許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は、議案第十五号館山市社会体育施設の管理に関する条例の制定に反対する討論を行います。

この条例の第一条は「市民の健康及び体力の向上並びにスポーツの振興を図る」ことを目的にしています。

地方自治法第十條二項は「住民は、法律の定めるところによりその属する普通地方公共団体の役務の提供をひとしく受ける権利を有し、その負担を分任する義務を負う。」と規定しています。

体育施設は市民の税金でつくったもので、市民が使用する場合は無料にすべきで、物的管理に経費がかかるとしても、使用料は第一条の目的からみれば最小限にとどめると同時に、高校、一般小、中学生等差別をつけるのは地方自治法第十條の二項の規定からみて問題があります。

ただし、本市の住民でないものが使用する場合は負担を分任してないので、割り増し料金を徴収するのは当然であります。ところが、別表一のプールの使用料については備考に割り増し料金の記入がありません。説明では、裸で識別が困難なので市外のものが使用する高い料金になっているといっています。これでは市民が高い料金を押しつけられることになりますので不合理であります。

また、このプールとは対照的に別表二の柔剣道場の使用料は、市民以外の利用者がないと説明しているのに、備考で市外の利用者の割り増し料金の条項が記入されています。

別表三の市民運動場は四月下旬に使用開始というのに、使用実績がないまま使用料をきめています。これも他市との均衡といっています。他市にはそれぞれ条件の違いがあります。市長は受益者が負担するのは当然といっていますが、最近の青少年の動向からみて市民の体力づくり、スポーツの振興をもっと重視する必要があると思います。

したがって、この条例第一条の目的、地方自治法第十條二項の

観点から、議案第十五号館山市社会体育施設の管理に関する条例の制定に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君）

次、三番安戸寿夫君。

（三番議員安戸寿夫君登壇）

○三番（安戸寿夫君） 私は、議案第十四号乃至十八号及び二十四号に対し、賛成の立場で討論いたします。

今定例会において文教民生委員会に付託されました議案は、委員会において慎重に討議がなされたことはいまだ委員長の報告により明らかでございします。

議案第十四号は、館山市における国民年金事務の円滑化を図るためのものであり、議案第十五号は館山市における諸体育施設の維持管理の上から条例の一本化は必要であり、また使用料の徴収についても、利用者による若干の負担は必要なことであると思ひます。

議案第十六号は、利用度の低い本制度を廃止し、社会福祉協議会において民生金庫の運用を高めるため昭和五十三年度予算において五十万円の補助金が用意されており、低所得世帯に配慮が損なわれるのではないと思ひます。

議案第十七号は奨学資金制度のワクの拡大であり、近來の経済状況に即応したものとて歓迎いたします。

議案第十八号は、事故発生より示談が長引いたようですが、被害者の要求を全面的に受け入れたものであるとの説明により了解いたしました。

議案第二十四号は、診療報酬の追加が主なものであり、市民の

診療の自然増加等に伴ったやむを得ないものと解します。また予備費についても国保会計の円滑な運用に必要なことであると思ひます。

以上の点から、議案第十四号乃至十八号、議案第二十四号に対し賛成するものであります。なお、委員長報告にありました要望事項につきましては、忘れることなく御検討くださるよう要望いたします。討論を終ります。(拍手)

議長(吉田勇治郎君) 次、一五番辻田 実君。

(一五番議員辻田 実君登壇) (拍手)

〇一五番(辻田 実君) 私は、議案第十五号並びに十六号に対しまして、私の意見を若干申し述べ、そうして十五号については反対、十六号については賛成の立場を明らかにしたいと思ひますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

館山市営市民球場の完成と館山市営五十メートルプールが改正され、新年度から使用できるようになりましたことは一市民として歓迎をいたすところでございます。そうしてこれに伴います今回館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例が議会に提案され、管理運営を一元化し、利用者の立場から利用しやすいものにならうとおることは館山市のスポーツ振興の面から非常に喜ばしいことだと思ひます。これを契機に施設の充実と運営の合理化に一層の努力をされますことを祈念してやみません。

しかし、提案された議案第十五号は管理、運営に関する事項よりも使用料に関するものが主要なものでございます。

私は、スポーツの重要性を常に強調いたしておりますが、スポーツの使用料を市民運動場から徴収するということは絶対に賛

成しかねるものでございます。したがって、この立場から若干の意見を申し述べさせていただきますと思うのでございます。

まず第一点は、日本の国は一九六四年東京オリンピックを境に急速に先進工業国に発展したのでございます。このことは生産の部面において機械化とオートメ化が進み農業、漁業、工業、商業を初め第一次産業から第三次産業のすべてにわたって合理化が進んだのでございます。生産部門だけでなく、生活面でも機械化が進み、家庭労働から婦人を解放し、交通機関はモータリゼーション化されたのでございます。

すなわち、工業化社会は人間を肉体労働から解放させたのであり、このことは同時に現代人の運動不足を招いたと言えるのでございます。いま私たちはこの運動不足から職場でも、家庭でものがれることはできないだろうかというところで模索しておるのでございます。ただスポーツ活動にのみよる運動不足を解消する方法が唯一の道として残されておるわけでございます。この意味において本市におきますところのスポーツ活動は重要な課題とされなければならぬと思うのでございます。このことが第一の理由でございます。

第二に、運動不足は文明病と言われる循環器系の疾患を招き、心臓病、脳卒中、高血圧により死亡がいまや死亡率の過半数に達しているということでございます。アメリカや西ドイツの学者の報告によりますと、スポーツにより多くの人が循環器系の病気を治すことができたという報告がなされております。したがって今日では人間生活の基本は衣食住から、衣食住プラススポーツにあると言わなければならないのでございます。このことは、十兆

円にも達した国民医療費をこれ以上増加させないためにも、予防医学の面からも重要なことだろうと思うのでございます。館山市の国民健康保険特別会計の市民負担の軽減へも運動不足の解消ということはつながると思うのでございます。

第三に、館山市は市民憲章の第一に体力づくりを掲げております。そして昨年度よりコミュニティ係を設置して、コミュニティづくりを市政の柱といたしたのでございます。これまではスポーツは少数の愛好者やすぐれた能力を持つ人たちの競技スポーツでございました。しかし多様化社会に発展した今日では健康の手段となり、年令、性別、職業、財産に関係なく、生涯を通じてスポーツに取り組むことが生命の維持の面からも、人権の面からも重要になっておるのでございます。一九七五年のヨーロッパ十九カ国によって採決されたスポーツ憲章がそのことを如実に物語っておりますのでございます。

第四に、したがってスポーツは生活の一部となったわけでございます。ですから、老若男女が集まって一緒に遊んだり、スポーツや運動を楽しむコミュニティでなければならぬのでございます。こうしたコミュニティ、スポーツに使用料を取るということは決してよいことではございません。部落の集会所、子供が遊ぶこうしたものにだって従来も金は取られておりません。

文化福祉都市である館山市において、市民が館山市に住んで日本じゅうのそれよりもよかったと感ずるものがあるとすれば、私は美しい自然環境の中で自由にスポーツができたということであらうと思うのでございます。このことは、文明の発展に比例してますます強くなるものと思われれます。現に私が一昨年ドイツを訪

問したときに、ドイツスポーツユニオンズの会長も、スポーツなくして人間の幸せはあり得ないということを強く指摘しておりました。

以上のような観点に立ちまして、私は市民運動場から使用料を取るということは非常に残念なことであり、こうしたことは館山市の市政の柱からも、市民憲章からも、また時代の趨勢からも取るべきじゃない、無料であるべきだというふうに思うのでございます。

そこで、私は今回の条例に関して、三点において反対の理由を指摘をいたしたいと思うのでございます。

このようにスポーツは人間生活の基本権となっております。議案第十五号の説明にあるように施設を維持管理していく上で、使用者には若干の負担をせよというところは、使用料を徴収する根拠があまりにも抽象的であり、スポーツの理念に欠けるものであります。このようなあいまいな形の中をもって、他の市町村において料金が徴収されておるということだけにおいて使用料を取る条例を制定することは、文化都市館山市にそぐわないものであらうと思うのでございます。

二番目に、議案にもありますように、市民運動場はあくまでも市民運動場であり、市民広場でなくてはならないと思うのでございます。維持管理費を捻出しなければならぬということであるならば、中央公園、城山公園、タジャク園なども無料でございます。これらの施設と同じように市民運動場は扱うべきであり、したがって無料にするのが当然なのであらうと思っております。

第三に、同じように学校等の施設、運動場は無料でございます。

市民運動場は学校施設と同じ考えに立つべきであると思つたのでございます。

以上の三点の理由から、他市では使用料を取っているところもあるから、館山市も取るということではなく、使用料を取っていないところもあるから、館山市も取らないようにするということにしたらどうかと思つたのでございます。そしてコミュニティ、スポーツを市民憲章や施政方針にあるコミュニティづくりの柱にしようではございませんか。説明が悪くて申しわけありませんが、私の意見に満場の御賛成をいただきまして、よろしく願ひをいたしたいと思つたのでございます。

続きまして、議案第十六号について御意見を申し上げたいと思つた。館山市民生資金貸付条例を廃止する条例について若干の意見を申し述べさせていただきますと思つたのでございます。

この民生条例につきましては、御案内のように昭和四十年から実施されたものでございます。なぜ昭和四十年から実施されたかということについて考えてみたいと思つたのでございます。当時館山市には船形並びに富崎に公益質屋がございまして、ひと頃はだいたい市民から利用されておったということを聞いております。しかしながら、高度経済成長期に入つた四十年頃から若干金融体制さらには福祉金融というものの対するところの考え方が変わりました。次第に近代化をしなければならぬ。こうした観点に立ちまして

民生貸付条例を制定したことは申し上げるまでもございません。そこで、今回の条例を廃止するに当たりまして考えてみなければならぬことは、現在館山市は非常にサラ金が多いということが言われております。すなわちサラリーマン金融が多いというこ

ことが言われております。先般私は所用で東金市を訪問し、東金市の警察の責任者と話したときに、どうも昔館山市に在籍したところがあるけれども、館山市というのはいまだに暴力団とか、サラ金とかそういうものが多いのかね。千葉県でもわれわれの職業仲間の中でも館山市は非常に多いということが指摘されておるけれども館山市の入は風光明媚な環境の中にあつて非常によい人が多いにもかかわらず、こうしたサラリーマン金融というものが多くいうことはなんかまだにうなずけないという話をしたのでありますけれども、まさにこの話は一人の警察行政の担当者のみならず多くの市民が感じておるところだと思つたのであります。

そこで、今日こうしたサラリーマン金融というのは、福祉金融そして現在名前のように低所得者のサラリーマンの生活金融としてのある程度の役割を果しているから多くの利用者があり、多くのサラリーマン金融が館山市にも存在してゐるものと思つたのでございます。

このことは、一定の役割を果す面からは、私は評価する面もありますけれども、しかし一方においては新聞等にときどき出ておりますように、サラリーマン金融によって非常に苦しめられて生活を破壊していく多くの人たちが報道されておるわけでございます。館山市においても私の身の回りにおいて何人かの方がサラ金に手を出して、そうして夜逃げをしなければならぬというやうなことでもって、夜逃げをしてしまったということも幾つか聞いております。このことは非常に重要な問題であると思つたのであります。これからサラ金そのものが制度としてあるから安易に使い、安易に使う中에서도高利に追われる。そうしてそのこ

とが生活破壊に導く人もいるし、またそれを使って生活を充実させるものも多いかと思うのでございますけれども、多くのものがやはり高金利に悩まされるものが多いと思うのでございます。

私は、そういう意味におきまして、今回福祉協議会において館山市の制度がかなり時代にそぐわない面もあるということでもって、福祉協議会においてこれを代行するような形で運用していきたい。こういうことで廃止になるわけでございますけれども、

私はいま申し上げたように、この廃止によって民生貸付金がこうしたサラ金を利用する中において生活を破壊されようという多くの市民に有効に利用され、そうしてこうした人たちがサラ金を借りることによって生活破壊が館山市には全くないんだ。こういうような形で運営されるよう要望してやまないわけでございます。このことをお願いいたしまして、十六号の廃止する条例については賛成をいたしたいと思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

以上、二議案についての意見を申し上げます、申しわけございませんでしたけれども、よろしくお願いいたしたいと思っております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終わります。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

まず、議案第十五号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する

る条例の制定について起立により採決いたします。

議案第十五号についての委員長報告は原案可決であります。議案第十五号を委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、議案第十五号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第十四号及び議案第十六号乃至議案第十八号並びに議案第二十四号の各議案を一括して採決いたします。

議案第十四号及び議案第十六号乃至議案第十八号並びに議案第二十四号についての委員長報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告のとおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十四号及び議案第十六号乃至議案第十八号並びに議案第二十四号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第十九号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号並びに議案第二十六号の各議案を一括して議題といたします。

議案第十九号 字の区域及び名称の変更について

議案第二十号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号 市道路線の認定について

議案第二十二号 市道路線の変更について

議案第二十五号 昭和五十二年度館山市国民宿舍特別会計補正

予算(第二号)

議案第二十六号 昭和五十二年度館山市ユースホステル特別会

計補正予算(第一号)

### 建設経済常任委員長報告

○議長(吉田勇治郎君) たいい議題となりました各議案は、去る三月十三日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果について委員長報告を求めます。

建設経済常任委員長 流山源次郎君。

(建設経済常任委員長 流山源次郎君登壇) (拍手)

○建設経済常任委員長(流山源次郎君) 三月十三日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案の審議の経過並びに結果について御報告申し上げます。

本委員会は三月十七日午前十時から庁内議員控室において、委員全員出席のもとに付託された六件の議案について慎重に、また熱心に審議を進めました。

議案第十九号は字の区域及び名称の変更でありますので、特別の問題点はありませんでしたが、念のため後日現地を視察することとを申し合わせました。

次に、議案第二十号は市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正案であります。本案は市が新たに笠名に建設いたしま

した市営住宅に関する当然の議案ですので、内容について格別な質疑をみず、後日現地を視察することを申し合わせました。

二十号議案は市道の認定であり、二十号は市道の路線を変更しようとするもので適当と認められたものであります。この両議案も本委員会の性格上、後日現場を確認することを申し合わせた次第であります。また、市道認定の基準になっている四メートルの幅員を、四メートル以下の生活関連道についても市道として認定するより要望する質疑もありましたが、認定の基準を変更しなくとも生活の関連道である以上、今後は市道に準じて扱い、市民生活に不便をかけないよう整備を図るよう運用面で十分考慮する旨の方針が示され、了承いたしました。

次に、議案第二十五号昭和五十二年度館山市国民宿舍特別会計補正予算案についてであります。この議案は鳩山荘に関するものでありまして、過去二カ年にわたってそれぞれ一千万円程度で修理したのであります。なにしろ老朽化がはなはだしく経営状況の好転はとうてい望めない現状にある旨の説明がありました。また、質疑を通じ今後の問題として、仮りに鉄筋化しても利用度を高める確信を得るに至らないので、なお今後一、二年は現状のままで経営を続ける方針を市当局が示しましたので了承いたしました。

さらに、隣接の国民休暇村協会西岬荘との関連での経営方法についての発言もありましたが、要望にとどめました。

次に、予算の内容の期末手当と勤勉手当の追加補正についてであります。また議案の審議中であるので、この予算を執行していかないかとの質疑があり、未執行であるとの答弁がありました。



しかし、手当の支給に関する規則によると十五日支給することになってゐるが、本日に執行していかとの重ねての質票に対して確答が得られず、一たん休憩して、関係者が調査した上で再開後、すでに執行した旨の回答を得ました。議会で審議中の予算であり、まだ可決もされない予算の執行は適當でなく、三月三日に提案し、規則で定められてゐるとおり十五日に支給しようとするなら、この議案だけ先議する余裕は十分あっただけに、この議決前の予算執行は議會輕視の感を免れないとの発言に対し、節内の流用は市長の權限で認められてゐるので、必ずしも違法とは言えないが、適當でなかつたとの意向が示され、了承いたしました。

次に、議案第二十六号はユースホステルの五十二年度特別会計補正予算案でありまして、内容についてはいずれも適當と認めた次第であります。

また、本委員会としては、建設行政と農政を含む經濟行政を扱うわけでありまして、經濟部門中にも農道舗装、漁港の新設、改修などの技術面があり、さらに水道、将来の下水道などの問題もあるので、行政組織の中で技術部門を考慮することと、技術者を待遇するとの印象を与えないよう配慮すべきではなからうかとの発言もあつたことをこの際申し添えておきます。

付託されました案件につきましては、以上のとおりいずれも適當と認め全員一致して原案どおり可決することといたしました。

以上をもつて、本委員会の審議の経過並びに結果であります。本委員会の決定どおり議決されんことを望みまして委員長報告を終ります。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、委員長長の報告を終ります。

### 委員長報告に対する質疑

○議長(吉田勇治郎君) ただいまの委員長報告について御質票を願います。

○一五番(辻田 実君) 一点だけ伺ひたいんですけれども、議案十九、二十、二十一、二十二に対して、委員長報告の中に後日現地を視察して云々ということとございましたけれども、それはどういふ内容を持つのか。私は受けとめ方が悪いのかもわかりませんが、現地を視察する必要があるならば、議案第二十一号、二十二号等については視察してからやるべきじゃないかと思うけれども、議決してから視察するといふこの種の問題についての経過はどういふふうに論議されたのか。この点、後日視察ということとは議案審議に当たつて事前に視察して審議できなかったのかどうなのか、この点についての経過がちょっと理解、読み取れませんでしたので、その報告はどういふことであつたのか。いさ少し説明を願えましたら、お願いしたいと思ひます。

○建設經濟常任委員長(流山源次郎君) ただいまの質問についてお答えいたします。

現地の視察という件でございますが、審議中に一応現地を視察した方がという案もございましたが、一応担当の課長の方から説明でも十分に皆さんに納得する線を説明申し上げたいということで、課長の説明を受けまして全員がそれを了解したわけでございますが、なお念のために實際の問題と、課長のわれわれ了解した線と、その件についてはまたわれわれ建設經濟委員會の立場上、再度参考のために現地を後日見て回らうではないかということ

の委員会の形でございました。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終ります。

これより討論に入ります。

討論の通告はありませんが、討論はございますか。——討論なしと認めます。よって、討論を終ります。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第十九号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号並びに議案第二十六号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十九号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号並びに議案第二十六号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第三号乃至議案第九号昭和五十三年度一般会計並びに特別会計予算を一括して議題といたします。

議案第三号 昭和五十三年度館山市一般会計予算

議案第四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第五号 昭和五十三年度館山市と畜場特別会計予算

議案第六号 昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計予算

議案第七号 昭和五十三年度館山市ユースホテル特別会計予算

算

議案第八号 昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計

予算

議案第九号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計予算

## 予算審査特別委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各会計予算はともに去る三月十四日の議会で特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員長伊賀多朗君。

（予算審査特別委員長伊賀多朗君登壇）（拍手）

○予算審査特別委員長（伊賀多朗君）議案第三号乃至第九号昭和五十三年度館山市一般会計及び特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。去る十四日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を二十日、二十二日の両日にわたり招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

まず、審査の結果について申し上げます。

議案第三号昭和五十三年度館山市一般会計予算、議案第四号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算、議案第五号昭和五十三年度館山市と畜場特別会計予算、議案第六号昭和五十三年

度館山市国民宿舍特別会計予算、議案第七号昭和五十三年度館山市ユースホステル特別会計予算、議案第八号昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計予算、議案第九号昭和五十三年度館山市水道事業特別会計予算の各会計につきましては、全員一致をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

審査の過程におきましては、各委員より活発な質疑が行われたのでありますが、今後の予算の編成、執行、行政施行にあたって留意すべき点、検討を要する事項等要望、意見のありました主な点について申し上げます。

一、議場の整備については、五十二年度冷暖房工事により審議環境の改善が図られるとありますが、なお議会の円滑な運営上音響、換気等環境整備に努めるよう要望いたしました。

一、附属機関として各種審議会が設置されているが、その構成員として議会の議員が参画することは、附属機関の趣旨からいって適当でないとする行政実例もあり、過去の経緯、各市の状況等あると考えるが、今後十分検討されるよう要望いたしました。

一、市庁舎、老人福祉センター、衛生処理場等のボーラーはい煙測定については、従前から県の指導もあって随意契約により同一業者に委託実施しているとのことでありますが、他に分析機関があるかどうか、業者の内容等調査し、慎重に対処されるよう要望いたしました。

一、老人福祉センターの運営については、利用する老人の側に立って細かい配慮が必要と考えるが、備品等老朽化の目立つものもあるので、諸施設の整備に万全を期すよう要望いたしました。

一、献血推進事業については、五十二年度実績千三百八十六名

達成率八七・七%をもって終了し、登録台帳制度についても実施の方向で進める旨の説明を受けましたが、登録台帳制度の実施についてさらに一段の努力を要望いたしました。

一、根幹事業実施計画書に衛生センター用地取得事業が計上され、施政方針においても財源を準備する旨、当局の決意が示されておりますが、すみやかな実現に格段の努力を要望いたしました。

一、稲作転換事業については、農政審議会を初め個々の農家の声を聞くため、関係団体と協議し推進しているとのことですが、より一層の市の指導を要望いたしました。

一、北条海岸のヤシ並木については、従前から指摘され、市当局においても防潮網の設置、他の樹木の植栽等対策に苦慮されているところでありますが、観光上からさらに方策を検討し、すみやかな対応を要望いたしました。

一、観光協会については、多額の補助金が計上されておることでもあり、観光シーズンをひかえて健全な運営により観光推進の実を上げるよう指導されたい旨要望いたしました。

一、公共下水道については、施政方針にその必要性が述べられ市の対応策についても記載されておりますが、早急に長期計画を樹立されるよう要望いたしました。

一、消防体制の強化については、土地の高騰に伴い防火水槽の設置が困難になっているので、消火栓の増設を推進されたい。また防火水槽設置にあたっては耐震性のすぐれたものを建設されるよう、なお化学消防の充実についても検討されるよう要望いたしました。

一、中学校の統合については西岬中学の建設により五十六年を

目途に推進し、東小、西小についても統合の方向が打ち出され、すでに説明を得るところであります。統合推進にあたっては西陣地域だけでなく、全市的な問題であることの基本的な観点から慎重に進められるよう要望いたしました。

一、補助金については特に詳細に審査を行いました。五十二年度七十八件、五十三年度九十件に及ぶ補助金が計上され、交付にあたっては館山市補助金等交付規則に従い交付している。本規則は予算支出手続であり、予算編成の段階では要望、陳情等により計上している旨、説明を得ましたが、特に新規補助事業については予算編成段階における申請書の提出について、今後の問題として検討されるよう要望いたしました。

一、地方債については現在の経済情勢から年々増加する傾向にあり、公債費の増大を余儀なくされているところであるが、これに伴う長期償還計画の策定については将来の検討課題とされたい旨要望いたしました。

一、市民運動場の設置に伴い、社会体育施設の使用料の改定が行われましたが、運営にあたっては市民感情を踏まえ、設置の目的に沿って維持管理に万全を期するよう要望いたしました。

一、基金についてはそれぞれ決算に合わせ議会に報告を受けておるところであります。運用にあたっては合理的に運用された旨要望いたしました。

一、歳入については詳細に概算の根拠等について質疑を行いました。特に不況が叫ばれている今日、その確保に万全を期せられるよう要望いたしました。

一、予算参考資料については今回初めての試みであり、市当局

も作成に苦慮されたことと思うが、今後なお議会と協議を重ね、適正な資料の提出を要望いたしました。

以上、本委員会における審査の概要について御報告申し上げます。満場の御賛同をたまりませんようお願いいたしまして、委員長報告を終わります。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

## 討 論

○議長(吉田勇治郎君) これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

(一八番議員渡辺軍治郎君登壇)

〇一八番(渡辺軍治郎君) 私は、議案第三号昭和五十三年度館山市一般会計予算に反対する討論を行います。

五十三年度一般会計予算は歳入歳出それぞれ六十一億三千七百八十五万円、前年対比で一七・六%の伸び率になっていますが、本年度予算の特徴は、市債が前年対比で六五%と最高の伸張率を示し、残高見込みも三十三億九千五百一十二万円となっています。これは市税、地方交付税、国庫支出金合計四十六億四千四百九十八万二千円との対比で七三%になり、財政硬直化の進行を示しています。

市長は、施政方針で昭和五十一年度において赤字財政を克服し

財政健全化を基調とした行政運営を図る見通しがついたといっています。五十一年度の赤字は借金に肩がわりしただけで、市債の増大は財政不健全化の指標となるものであります。

経済情勢は円高、不況と国債の増発により新たな財政危機を迎える方向に進みつつあります。このような状況のもとで、人減らし、合理化を図ってきた市長が、お手盛りで交際費を増額し、行政機構の改革と称して管理職手当を引き上げ、新たに特一等級を設けて上級職の給与を増額し、上からの支配と統制を強化する反面、市民に対しては保育料を初め使用料、手数料の増収、行政経費を寄付金に求める税外負担の増大など受益者負担の原則を一般化し、市民に負担を転嫁するのは当然という反動的なものとなっています。

歳出の面では、市長、議長交際費八十万円の増額に対し、社会福祉では交通遣児手当、生活保護者の年末見舞金、長期療養者見舞金、敬老祝金など高物価の中で据え置きにされたままになっています。

行政委託料は二六%増額し六百四十四万六千円計上しています。規則を改めない増額は民主的組織である町内会との矛盾を拡大するだけであります。地方自治法では行政事務の委任はごく限られた職員だけになっています。市長が規則をつくることができず、法令に違反しない限りにおいてだけあって、私人や民主団体に行政事務を委託する規則は明らかに地方自治法に違反するものであります。

市長は、市民には知る権利があり、市長は市民に知らせる義務があるといっていますが、広報はそのための市固有の事務になっ

ています。これを町内会長を通じて配布するのは別の問題で、民主的組織を行政に従属させる便宜主義でありますので、改めるよう要求します。

次に、納税組合奨励金は市税、国民年金、国保税合計二千三百五十五万円になっています。館山市納税等奨励規定の目的は、市税等を容易かつ確実に完納できることを奨励するため納税組合を設置するとし、納税組合長が市税等を期限内に取りまとめ納付しなければならぬと規定しています。これは明らかに徴税事務の私人に対する委任であります。

市税の徴収は、地方自治法第四十九条で市長の担任事務とされています。同じく第二百四十三条は公金の徴収を私人に委任し、または私人をして行わせてはならないと規定しています。また地方自治法施行令第五十八条も私人に徴収事務を委託する範囲を明らかにしています。これらの法令を総合的に理解するなら、市税が公金でないなどというのは全く醜態に過ぎません。法令に違反する規定を改めるよう要求します。

次に、都市計画事業の公園費に中央公園の用地購入費三千五百八十五万円が計上されていますが、すでに中央公園は完成しているのに現実性がないばかりか、この用地購入費は市の資金繰りのために公社に売ったもので、それを市が公社から購入するという形式をとったもので、財産管理費として扱う性質のものです。

谷藤原運動公園用地購入費を五十一年度の公園費に三億三百九十二万九千円計上されていますが、これも七年前に公社が取得したもので、県の都市計画事業となっているものを市の公園費に計上するのは矛盾しています。これも当然市の財産管理費で扱い、

負担金の二千五百万円を公園費で扱うべきで、都市計画事業の無計画性を示しています。

中央公園の用地購入費三千五百八十五万円を除いた五十三年年度の都市計画費は一億八百七十九万三千円、これに対する都市計画税は一億三千二十一万九千円で、その差額二千四百二十二万六千円が他に流用されています。都市計画税は都市計画事業に要する費用に充てるための目的税である以上、計画性を持ったものにする必要があります。

次に、歳入面で、幼児保育料が七千四百万円計上されていますが、館山市の保育料は厚生省基準より若干安くなっています。三歳未満児でD八、D九の階層は三万三千円から三万六千円になり、家計の大きな負担になっています。神奈川県では十八市のうち二万円を超えるのは一市だけです。

地方自治法第十条二項の住民の権利と負担分任の義務からみて非課税者は保育料が無料であるのに、所得税を多く負担するものが高い保育料を負担しなければならないのは矛盾している。高い保育料を引き下げるよう要求します。

次に、寄付金の一千万円についてですが、消防の寄付金二百九十九万六千円は消防組織法第八条に違反するものです。漁港の寄付金四百六十六万四千円は県の事業の負担金を寄付という名目で下におろしたものです。市道舗装百万円、青年館の寄付金百八十万円これにしても管理者は市長であり、公費で負担すべきものであります。

市長は、地元の要望があったので、強制しないといっています。が、強制しないからよいというものではありません。地方財政法第四条五項に対する自治省通達、一般財源の不足を寄付金に求

めることは住民相互の負担の公正を欠くので、税で徴収するようというのが本旨と理解すべきであります。よって、税外負担となる寄付金の徴収を合理化することをやめるよう要求するものであります。

次に、使用料、手数料を一億六千百十三万三千円計上していますが、前年対比で一千八百七十七万三千円の増収になります。手数料について地方自治法第二百二十七条は、特定の者のためにするものにつき手数料を徴収することができると規定しています。実例でも行政上の必要のためにする事務については手数料は徴収できない。事務は固有の事務のみならず委任事務、行政事務を含むとしています。

そこで、国民年金受給者証明は特定の本人の必要からではなく社会保険庁業務課の事務の必要から被保険者に求められるもので、市の手数料条例第七条二項に該当するとみるのが妥当であります。そのように取り扱うよう要求いたします。

以上、問題点を指摘しましたが、五十三年度予算は相変わらず市民に背を向けた予算になっています。私は市政の民主化、市民生活防衛の立場から議案第三号昭和五十三年度館山市一般会計予算に反対するものであります。

次に、私は議案第四号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算に反対する討論を行います。

国保会計の本年度予算は、歳入歳出ともに十四億四千四百七十九万九千円ですが、歳出の面で保険給付費は十三億五千三十九万四千円、前年対比で二億四千八百八十八万六千円、二一・七%の増となり、二月一日の医療費値上げ九・六%から見ると大幅な増にな

っています。

歳入の面では、国庫支出金八億二千九万三千円、前年対比で一億三千七十二万一千円、一八・九%の増。保険税は五億七千九百六十九万四千円で前年対比一億七千六百六十二万二千円、二二・八%の増になります。これを三月補正後の四億二千八百三万二千円と対比すると三五・四%の増となり、過大見込みになっているように思われます。

積算資料では、保険税一世帯六万六千九百六十三円、前年対比二二・一%の増、一人当たり二万二千九百三十一円、前年対比二一・七%の増になっています。一世帯当たりの保険税は前年対比で一万一千六百七十二円の増、六月算定で一万七千八百八十四円の増となり、市民にとっては大きな負担増になります。

医療費と関係のない経費は他会計に移すよう主張してきましたが、本年度は保健婦設置費二千四百五十五万五千円が一般会計に移されましたが、事務費の超過負担分二千六百七十七万六千円、助産費一千二百十六万円、葬祭費六百六万円、育児費百八十二万四千円合計四千六百八十二万円は他会計に移すべき性質のものであります。したがって、他会計に移すか、一般会計から繰り入れる根拠があると思います。

なお、国保税の軽減を図るためにけ事務費の超過負担をなくし国の負担金及び交付金をそれぞれ五%ずつ引き上げるよう要求し議案第四号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算に反対するものでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 次、一五番辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君） 一般会計並びに特別会計について御意見を申し上げたいと思います。

今回の予算につきましてはいろいろの問題点もございますけれども、今日の社会情勢等勘案して原案に賛成をいたすものでございます。しかしながら、賛成するに對して幾つかの問題点について意見を申し述べたいと思います。

まず第一に、予算の總括的に見てまいりますと、施政方針にも明らかにされておりますように、五十一年度において赤字財政を克服し、財政の健全化を基調とし今日に至っております。

こういう前提に立って予算を見ておりますけれども、この点については私は先般の通告質問で質問をいたしました。收支におきますところのバランスの面については黒字財政ということになっておりますけれども、その内容におきまして起債の依存度が非常に高まっております。起債の依存度が高まる中をもって国庫支出金、補助金等の増額を得て相乗的にこうしたところの予算がふえておるわけでございますけれども、このことにつきましては一定の評価をいたしたいと思うわけでございます。しかしながらやはりこのような予算の骨組みを組み上げる一つの柱に、また推進する柱に起債に依存しておるということについては今後十分検討していただきたいことを、まず要望いたしておきたいと思っております。

二番目に、支出の中におきまして公共事業がかなり導入されまして、市民生活の基盤整備につきましては一定の前進をされておることを評価いたすわけでございます。しかしながら、まだ福祉関係につきまして、また体育関係等につきましては、これらの予



算に比べますと不十分な点が見当たるわけでございまして、この点につきましては今後十分福祉、スポーツこういったもののバランスを考えていただきたいと思います。

こうした観点に立ちまして、具体的に私は支出の面でもって五点、収入の面におきまして四点にわたりまして要望意見を申し述べたいと思います。

まず、支出の面の要望意見の第一は、第二款総務費中におきましてところの防犯灯新設事業補助金七十万円、五十カ所分でございますけれども、かなり街灯は普及してあるわけでございましてけれども、しかし、まだいまだに地域におきましてところの小・中学生のクラブ活動後におきましてところの通学道路等においてまだ電気がほしい。こういう意見もかなり出てあるわけでございまして、この防犯灯五十カ所の設置に当たりましては通学路を中心にしてより一層の充実を図られますよう要望いたしたいわけでございます。

第二点は農林水産費でございます。これは通告質問の中で一三番議員が指摘されておったわけでございまして、今年には減反政策をめぐって農村が非常に転換期にきているわけでございます。特に減産をめぐって稲作の転換奨励が打ち出されてあるわけでございまして、予算案を見る中におきまして、農林水産費二億三千九百二十万円、前年対比二千五十万円の減になっています。この具体的な内容につきましては、一三番議員の討論の中でもってかなりなされておりましたけれども、こうした計数の中において、市長は農業政策はむしろ内容的に進んでおるといふような面も指摘されておったわけでございまして、けれども、し

かしながら日本農業のまさに画期的な政策であるところの稲作転換事業が今年度から推進されようとしているわけでございますので、より一層二億三千九百二十万円の予算を稲作転換の面において成果を上げられますように、そしてこれらについて不十分な点については補正予算等について優先的に補正財源を確保しながら稲作転換事業の推進に当たっていただきたいことを要望いたす次第でございます。

第三番目に、第七款観光補助金でございまして、昨年一年間大変努力をされた面につきましては評価をいたしたいと思っておりますけれども、しかしながら観光協会の再建は非常にむずかしい幾つかの障害があるやに聞いているわけであります。この面については昨年同様五百九十万円の予算を計上されたわけでございまして、単に予算の支出をもって云々するわけではございませんけれども、観光館山にふさわしい再建されすよう、この予算が利用されるように一つよろしくお願いいたしたく要望する次第でございます。

四番目に、土木費でございまして、今回道路新設改良費一億四千三百九十万円が計上されてあるわけでございまして、この面につきましては既設の市道から里道等に至る舗装、改修もしていく、こういう面が質疑の中で若干打ち出されてあるわけでございまして、特に従来の市道はもちろんのこと、生活道路と言われている里道というんですか、脇道というんですか、こういう面におきましてところの舗装、改修に力を入れていただきたい。このことについて要望をいたす次第でございます。

第五番目に、第十款教育費についてでございますけれども、



西岬中学校の防音改築事業については予算委員長の方から若干の意見が、討論の経過が報告されておりましたけれども、やはり五十五年度統合を目指してあるわけでございますから、この点については単に西岬だけの問題ではないという委員長の指摘がありましたように、一つこの校舍改築に対して、防衛庁の予算がついたからということだけで、教育の現場に支障を来すことのないように最善の注意をはらっていただきたい。

特に、この防音改築につきましては、私個人的には、やはり統合する学校の一部分が一年入るか入らないために校舍をつくる、しかしながらそれは中学校をつくるという名目で建ったけれどもしかしそれはほかのものに転用するんだ、こういうような形の説明については、教育施設として私は非常に耐えがたいものがあるわけでございます。しかしながらこれは防音校舍建築の一環として、西岬中学に使わないけれどもしかし西岬中学としてつくらなくちゃならぬという、今日の財政構造の状況というものはわかりますけれども、その点はやはりわれわれ議員といたしましてはこの予算を承認し、そして有効に執行していただきたいという願望もあるわけでございますけれども、そうしたものをやはり一議員としてもある。このことは多くの市民の中にもそうしたことが行われるのか、教育というものはそういうものでいいのか、こういうような意見もあるということを十分念頭に置いて、このことは教育的な立場において十分執行にあたっては考慮していただきたい、このように御意見を申し上げたいと思うわけでございます。

さらに、市民体育館建設事業費一億三千五百七十八万五千円が

計上されてあるわけでございます。非常に、先ほども市民運動施設については無料を提唱したわけでございますけれども、館山市においては市民体育館がないわけでございますから、ぜひこの市民体育館を年度内の完成ができますように、それも一日でも、一月でも早く実現されますように努力をお願いしたい。この点については予算の見通し等からいって、時期がいつになるかわからないというようなことを言われておりますけれども、政府においては公共事業の育成を掲げ、そして景気浮揚の面からみてもできるだけこうした事業を早く行いたいという姿勢もあるわけでございますから、なかなか困難なことであるかもしれませんが、そういう面についての関係官庁への折衝、こういうような面においても十分配慮して、年度内完成を一日も早くできますようお願いしたいことを要望する次第でございます。

これと同じように、館山小学校のプール三千八百万、房南中学校のプール三千万、これにつきましても二二番議員のほうから夏に間に合わなければ意味がないので、こういうことが質疑の中でもって指摘されておりましたけれども、まさにそのとおりでございますして、温水プールじゃございませんから、七、八、九月ははずしてしましますともう一年間は使えない、こういう状況にある点を考慮いただきまして、ひとつ格段の早期実現への努力をお願いしたいわけでございます。

なお、九重小学校の屋内運動場についても、かなり老朽化がひどいわけでございますけれども、この五千百九十二万円の予算執行にあたって、前記同様ひとつよろしく願いたいわけでございます。

さらに、第六点目といたしまして体育の振興補助金が四百三十万円計上されておるわけでございますけれども、しかしながら体育全般に対するところの管理、運営並びに振興費、こうしたものが全体的に少ないように見受けられます。館山市は体力づくりを市民憲章の第一条に掲げておるわけでございまして、今回の予算についてはまだまだ不十分な点はございますけれども、総体的な予算運営の中でもってこの程度でやむを得ないといったしめてもひとつ体育振興費については十分な配慮をして、体育の振興に努めていただきたいことを要望いたす次第でございます。

次に、収入の面についてでございますけれども、館山市の財政構造については一般討論の中でもっていたしてきたところでございますけれども、まず地方税については前年度当初見込み額に対して一三・八%の見込みを立てられておるわけでございます。しかしながら国の地方財政計画を見ますと、地方税については総体といたしまして一〇・四%の上昇率でございますから、これから見ると三・八%増でございます。しかしながら国の一〇・四%の地方財政収入見込み増額についての内訳を検討いたしますと個人住民税においては一七%、固定資産税においては一七・六%ということでございます。そしてこの地方財政計画の中において指摘されておりますように法人関係の落ち込みがあるので、法人税に依存するところの市町村はこれよりも財政状況が変わってくるということでもって、法人税関係は全体としては〇・八%の伸びにとどめているわけでございます。法人税関係の伸びが〇・八ということでございますから、全体的には一〇・四%、したがってまして館山市の市民税の基本になっているのは個人住民税並びに

固定資産税が中心でございます。この面からいきますと、一三・八%というのは税収入として日本の財政計画の状況の中から見て若干下回るんじゃないか。こういった点について今後考えてかなければいけないんじゃないか。私が試算していくならばやはり一六・五%から一七%くらいの見込めるような財政規模にしていかなければ長期的な面の財政運営として健全ということは言い切れないんじゃないかと思ひまして、この面についてひとつ努力方を要望する次第でございます。

二番目に地方交付税でございますけれども、これは多く議論したところでございます。国においては七兆四百億——前年より一兆三千三百四十五億の増でございます。二三%の増額をみでおるわけでございます。基準財政需要額で見てもいりますと、経常経費でもって九%から一〇%の伸び、投資的経費の面でもって一九%から二〇%が市町村地方交付税分として見込まれておるわけでございます。しかしながら、館山市におきましますところの交付税の増加率は昨年実績ということでもって、ほとんどこうした一〇%から二〇%の見込みというものは見込まれておらない。この面については十分検討をされまして、地方交付税の増額に努力してもいい、かように思うわけでございます。

その次に、国庫支出金については、国全体としては一七%の増、しかしながら一般公共事業費については三四・五%の増、災害復旧事業を除くと三四・五%の増になるわけでございます。館山市においては国庫支出金は約三〇%強になっておりますから、国庫支出金についてはまあまあであろうというふうに思うわけでございます。地方債において、国においては前年対比一兆

一千六百三十五億円の増加をみておるわけでございまして、したがってこの増加率は二三%でございまして。しかしながら館山市におきまところの一般会計の増加率は七〇%を超えております。特に全体的な地方債の増加率は二三%でございまして、けれども、一般会計分の地方債の増額は国においても三二・九%でございまして、この地方債の部面においては非常にハイペースの増加をみておるわけでございまして、したがってこの面からみてまいりますと国庫支出金がかなりふえてもいいのではないかとかように思うわけでございまして、したがってこうした面において地方債の増加比率から見ても国庫支出金等についての増が総体的に調整されておらないということについては、若干検討の余地があるのではないかと、このように思うわけでございまして、今日館山市の市債の残額が五十二年度で三十四億に達してある、そしてこの元利償還額が本年度予算においては三億四千五百九十二万円に達してあるということでございます。このことは年々据え置き期間が切れてまいりますと増加してくるわけでございまして、この面については伊賀委員長の方から報告がございましたように、長期償還計画を立てて運用されることを要望する、こういう意見が出されておるわけでございまして、したがって地方債についての洗い直しをお願いをいたしたいと思うわけでございます。

第四番目に、部制施行に伴う財政執行についてでございますけれども、議案第十号、十一号議決されたことによつて部制が敷かれるわけでございます。特に十一号議案の中においては職階制の編成がありまして、特一等級というものが設置されたわけで

ございますので、これに伴うところの職階制の変化が当然出てくるものと思われまして。市長は現状の課長制度についてはそう大きく変わらないということを指摘しておりましてけれども、しかしながら現実的には十一号議案の特一の制度によつて職階制は大きく変わらざるを得なくなってくるだろうとことが見込まれるわけでございます。予算の執行はやはり職員でございます。こうしたところの職階制の変更によりまして予算の執行に支障を来すこともなからうかと思ひますけれども、十分、全体的な予算運営がスムーズになされますよう要望いたしまして、一般会計におきますところの意見を終らせていただきたいと思います。思うわけでございます。

次に、特別会計に移ります。

特別会計の中のと畜場特別会計でございます。稲作農業の転換という中においては畜産業の振興というものの一つの柱になっておるわけでございます。館山市は稲作転換の目玉商品としてこれまで行われてきたことは牧草地の普及が主たるものであるわけでございます。このことはやはり酪農の振興でございまして、これに伴うところの食肉関係につきましても関連して普及させるわけでございます。けれども、と畜場特別会計において昨年度と違うことは、今回職員が廃止されて臨時職員の賃金ということで五百六十二万六千円が計上されておるわけでございます。稲作転換事業の中においてと畜場の運営強化をしていかなければならないのであって、この面についてはやはり正規の職員をもって行政機構の中でもって十分管理、運営ができるようにしていただきたい。もちろん賃金ということでもって、臨時職員でまかなって、それ

ができないということではなからうかと思えますけれども、しかしながら長期的な展望をもつならば、市の職員を充当するのが本来じゃなからうかと思ひまして、この面については今回は賃金で補えるものと思ひますけれども、十分検討していただきたいことを要望するわけでございます。

国民宿舎特別会計についてでございますけれども、これから低成長下に入りましてこうしたところの国民宿舎の利用は高まってきたというのを聞いておるわけでございます。しかしながら鳩山荘におきまところの会計は非常に苦しいものがございます。そういう中において、今日この種の経営については一般の宿泊者のみだけにとどまらず、雑収入利益を非常にふやしていくということが近代的な旅館経営、宿泊経営ということが言われております。多面的な経営——宿泊施設の中にプールをつくったり、ゴルフ場をつくったり、いろいろなそういうものをやりながら、そういうものを目玉にしながら、本来の宿泊のほかの収入というものをもって総合的な経営というものがなされるというのが今日の趨勢でございます。国民宿舎はそういうものが設けられない面があるにしても、売店の売上収入が五十万ということでもってほぼ定着してある、したがひましてこちらへの売店等についてはやはり館山市の産物、そういう物産店等も入れる中において、館山市の地場産業の振興、さらにはこの経営の合理化、こういうものに充ててもらえないかというふうに思ひわけでございまして、こちらへの検討をお願いしたいと思ひわけでございます。

もう一点は、雑入の中でもって違約金その他が百十一万四千円というものが計上されておるわけでございます。非常に大きな額

ではないかというふうに思われるわけでございます。この点については、違約金を取るということで百万円を超えるということはいくつかの施設の内容からいって本意なものじゃないと思ひわけでございます。むしろ違約金等もとらないでスムーズに宿泊利用というものができるようにしていくことがより正しい運営方法だと思ひわけでございます。これには私は予約制度に伴うところの諸矛盾がこういうところに出てくるんじゃないか、非常に早くから夏季の予約云々ということがあつても、こういうものは違約金払つても云々という中でもって、多額な違約金が当初予算の中において百万以上のものを計上していかなければならないということは、私は姿勢としてはあまり好ましいものじゃないように思われるわけでございまして、この違約金の問題につきましては、収入として上がることは結構ですけれども、むしろ事業収入で上がるべく努力、改善をお願いしたいと思ひます。

以上、要請意見を付けまして、一般会計並びに特別会計について賛成するものでございますので、十分ただいま指摘しましたような意見を参酌されまして、この執行にあたつていただきますことをお願いいたしまして終りたいと思ひます。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 通告者による討論を終ります。  
通告者以外で討論ございませんか。——討論なしと認めます。  
以上で討論を終ります。

採

決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決を行います。  
採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず議案第三号昭和五十三年度一般会計予算について起立により採決いたします。

議案第三号についての委員長の報告は原案可決であります。

委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

#### (賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第三号昭和五十三年度一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで議案第四号国民健康保険特別会計予算について起立により採決を行います。

議案第四号についての委員長の報告は原案可決であります。

委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

#### (賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第四号国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで議案第五号乃至議案第九号各特別会計予算を一括して採決いたします。

議案第五号乃至議案第九号各特別会計予算についての委員長の報告は原案可決であります。

各特別会計予算を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

#### (「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって議案第五号乃至議案第九号の各特別会計予算は原案どおり可決されました。

### 請願 附の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第五、請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書を議題といたします。

請願第一号 日中平和友好条約締結促進に関する請願書

#### 総務常任委員長報告

○議長(吉田勇治郎君) ただいま議題となりました請願書は、去る三月十四日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。よってこれより本請願に対する総務委員会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

一二番議員栗原一雄君御登壇願います。

#### (総務常任委員長栗原一雄君登壇)

○総務常任委員長(栗原一雄君) 去る三月十四日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書について、十五日委員会を招集し、審査を行いました。以下審査の経過について御報告申し上げます。

本請願書につきましては、国政における重要な政治課題として論議されておる問題であり、また外交に関する問題でもありますので、なお慎重に審査を要するとの観点から閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承賜りますようお願いいたします。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長の報告を終わります。

#### 継続審査について

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり、本請願を閉会中の継続審査と

いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって決しました。

## 議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第六、議案第二十八号館山市助役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第二十八号 館山市助役の選任について

## 議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 提案理由の御説明を申し上げます。

現助役の吉野茂樹君が一身上の都合により、三月十日付けをもって辞表の提出がございました。事情やむを得ないものと考えまして三月三十一日付けをもって退任いたさせることにいたしました。したがって、三十一日をもって助役が欠けることになりましたので、その後任として現在の小倉澄男市長公室長を任命いたしたいと存じます。最も適任者と考えますので、皆さん方の御賛成をいただきますと存じます。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと

認めます。

## 委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略して直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

## 採決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

助役選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって助役選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

## 閉会 午後零時五十五分閉会

○議長(吉田勇治郎君) 以上で三月三日招集の第一回市議会定例

会に付議されました案件はすべて議了いたしました。よって本定例会をこれにて閉会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本日も第一回市議会定例会は閉会することに決定いたしました。

○ 本日の会議に付した事件

一、議案第三号乃至議案第二十六号

二、議案第二十八号

三、請願第一号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉

田

勇治郎

館山市議會議員

松

下

正己

館山市議會議員

西

村

真次

